



こうだ かずひろ
國府田 和弘さん(森添島)

変化の激しい現代。リーダーシップや優れた創造力を発揮できる人材が求められています。

政治・経済が世界規模へと拡大、気候変動や温室効果、テクノロジーの進歩と日々変化の激しい時代に私たちは生きています。今こそリーダーシップや、優れた創造力を発揮できる人材が必要とされています。私たちは、改めて尊徳の生き方や組織形成の概念を現代に呼び起こし、新たな道理や知識の土台としていくことが必要なのではないでしょうか。

600か所以上の村を再建 人々のやる気を引き出す報徳思想

類稀なるリーダーシップを発揮して、農村の復興に尽力した

二宮尊徳 その教えを学び報徳サミットが筑西市で開催されます。

報徳サミットでは、将来に備えたまちづくり・ひとづくりについて二宮尊徳の教え「報徳思想」を基に、

これからの時代を生きる事についての研究が発表されます。

なぜ今、尊徳なのか

政治・経済が世界規模へと拡大、気候変動や温室効果、テクノロジーの進歩と日々変化の激しい時代に私たちは生きています。今こそリーダーシップや、優れた創造力を発揮できる人材が必要とされています。私たちは、改めて尊徳の生き方や組織形成の概念を現代に呼び起こし、新たな道理や知識の土台としていくことが必要なのではないでしょうか。

尊徳の導きでよみがえった桜町

尊徳が赴任した1821年の桜町(現真岡市)は、働けど美りが少なく、人々の心も荒廃していました。その

ような中、尊徳は自ら率先して農業に取り組み、住民とコミュニケーションを取ることで、助け合いの精神と信頼関係を構築していきました。

また、民主的かつ公正になるように寄合で住民投票や意見交換を行い、住民に意思決定をさせるなど、人々に自信と自立を促しました。

公私共に働きかけ、リーダーシップを執っていくことで、尊徳の考え



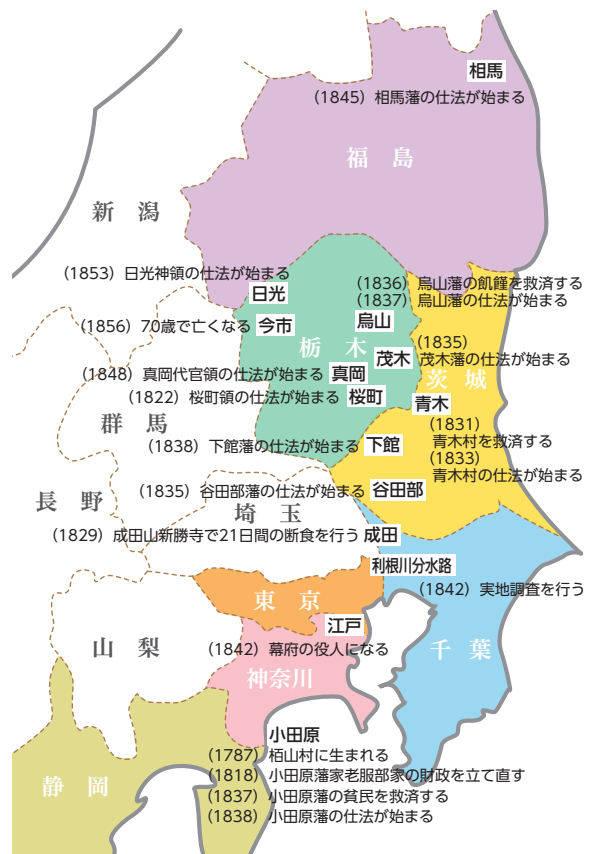
【二宮尊徳座像図】尊徳は37歳の時に、実家の家財や田畑を全て売り払い桜町に移住した。

方が住民一人ひとりに伝わり、大きな力へ変わっていく事を確信していたのでしよう。以後、10年で目標収穫高の2000石を達成する事ができました。

後世に誇れるまちづくり

昨今は、尊徳の時代には存在しなかったテクノロジーが、私たちの生活を劇的に変え、未来が複雑で予測不可能なものとなってきています。

このような変化の激しい時代だからこそ、私たちの住むこの筑西市を「後世に誇れるまち」にしていくために、尊徳の教えを再考し、それぞれがリーダーシップと協調性を持って歩んでいく必要があるのではないのでしょうか。尊徳の功績を改めて学び加してみませんか。



【二宮尊徳・関係略地図】尊徳の実績が世に知られるとともに、領地を超えて再建の依頼が殺到した。



【桜町陣屋跡】小田原藩主大久保家の分家である旗本の宇津家が桜町を統治するために建てた役所で、尊徳はここを拠点として、近隣の村々の復興につくした。